

はじめに

平田 光司 葉山高等研究センター

ここでは研究会での講演以外に、本研究課題に関連する論考、報告をあつめました。遺伝学専攻（遺伝研）の嶋本先生の論考「夢から現の5年一貫」は、当初、別の目的のために書かれたものですが、総研大発足時の状況、5年一環博士課程への移行についての記録であり、総研大だけでなく、日本の大学院の問題を考える上でも貴重なものと考え収録させていただきました¹。全学事業推進室の加藤さんの報告は京都大学文書館などでの研修の報告で、第2部における西山先生の講演と相補的な役割をするものです。葉山高等研究センターの横山さんの報告は海外の主要な研究所におけるアーカイブズの状況を具体的に紹介するもので、日本の現状との落差が明瞭です。核融合研アーカイブ室の大林先生、木村先生には、平成16年度にUCLAで行われたKEK-UCLA Workshop on KEK Archivesの報告をしていただきました。

¹（嶋本先生による注）

この一文は、依頼に基づいて、総研大ジャーナルへの寄稿として書かれたものであり、生理学専攻の小松先生による統計データ、遺伝学専攻の相賀先生による学生の声と共に掲載される予定のものであった。しかし、編集委員会内にこの記事の掲載を巡って異論があり、編集長の判断で掲載されなかったものである。依頼の際に良くうちあわさなかった、私と平田編集長との責任は大きい。小松先生、相賀先生を初めご協力頂いた方々に対して、お詫び申し上げます。しかし、編集委員会内に、自分と異なる意見の依頼記名原稿がでたときに、自由に掲載を遅らせ、自ら反論を併記して出版出来るにもかかわらず、ただ掲載を拒否したことは無視出来ない事実である。事柄は小さなこととはいえ、編集委員会が「言論の自由」ということと編集委員会の権限をはき違えていると、著者は考えざるを得ないことをここに記しておく。